

## 海域の概要

本湾は、奄美半島北部に存在する湾で、北部を東シナ海に開いています。湾奥には赤木名港があります。湾内には珊瑚礁が広がり、ダイビングスポットとなっています。



## Specification

### 諸元

湾口幅：3.23 km

面積：1.47 km<sup>2</sup>

湾内最大水深：6.5m

湾口最大水深：6.5m

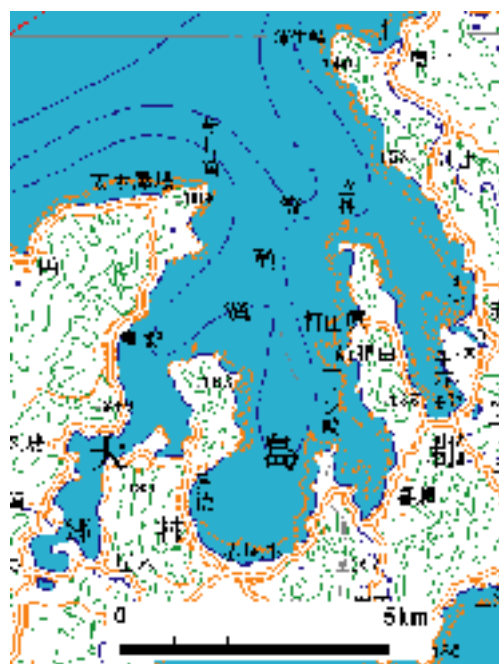
閉鎖度指標：1.19

備考：環境基準類型指定水域

## Location

### 範囲または位置

鹿児島県大島郡龍郷町今井崎から 47 度に引いた線及び陸岸により囲まれた海域。



## 環境

奄美大島北部に位置し、湾口を北に東シナ海に向けて開いている湾で、島の西方を黒潮本流が北上しています。気候は、南西諸島気候区に属し、一年中暖かく雨が多い亜熱帯気候を示します。夏季には台風の影響を受けやすい地域です。

汚濁要因となる流入河川はほとんどなく数本の小河川が流入するのみで、水質は良好に保たれています。

## 自然

岬で仕切られた奥深い4つの支湾からなる湾で、湾奥部の一部を除き奄美群島国定公園に指定されています。

湾内には造礁サンゴが良く発達しています。また、湾奥の久場、津ノ子、喜瀬、手花部には干潟があり、多くの南方系のシオマネキをみることができます。また、シオマネキだけでなくスナガニ科全体を見ても非常に多くの種類が生息しています。

湾口の今井崎付近には、パショウ・ソテツ群生地が見られます。

パショウは中国原産ですが、奄美では、その昔飢餓の時に食料としたり、繊維は芭蕉衣（パシャギン）と呼ばれる着物にしました。ソテツは現在、盆栽として知られていますが、奄美では食料としても利用されてきました。

湾奥の倉崎海岸は我が国で初めて発見された隕石孔として知られている「奄美クレーター」の一つです。蒲生崎からの夕日の眺望は素晴らしく西から南に龍郷、赤尾木、赤木名の湾が一望され、晴れた日には北方はるかに十島の島々が展望することができます。

笠利町の町花でもある「シャリンバイ」は、大島紬の原料として使われる他、街路樹として植生されています。



長雲峠からの笠利湾

## 文化歴史

湾岸の蒲生崎神社は、平家の落人が源氏の追っ手の遠見番を託した蒲生左衛門を奉って建てられたものです。南洲謫居跡は、西郷隆盛が維新の混乱を避けるために潜居したところです。

## 産業

笠利湾に面する龍郷町と笠利町では、黒糖、焼酎、大島紬が特産品として有名です。1300年の歴史がある伝統産業の大島紬は、全国的に有名で、龍郷町には伝統の紬柄である「龍郷柄・秋名バラ」があります。

また、最近漁港の整備が進み、沿岸漁業から近海漁業への発展が望まれます。また、クルマエビ養殖漁業も行われています。



大島紬